

さかんになった大根づくり

さかんになった大根づくり

大正の頃から、東京に移り住んでくる人がだんだんと多くなり、板橋や巣鴨などは今まで畑だった所がつぶされて、住宅地になってきました。

田柄の農業が、一段と注目されるようになって野菜づくりの全盛期に入っていました。

その中心作物はなんといっても大根です。「練馬大根」といってたくあんづけの材料として日本中の人から親しまれ、たくさん作られました。

しかし、これは昭和八年の大干ばつ(水不足)のあと、モザイク病という植物の伝染病が何度も流行したために、ごく一部の熱心な農家を除いて、だんだんと作られなくなり、ほかの野菜作りにかわるようになりました。

